

- 1 わが民よ、わが教を聞き、わが口の言葉に耳を傾けよ。
- 2 わたしは口を開いて、たとえを語り、いにしえからの、なぞを語ろう。
- 3 これはわれらがさきに聞いて知ったこと、またわれらの先祖たちがわれらに語り伝えたことである。
- 4 われらはこれの子孫に隠さず、主の光栄あるみわざと、その力と、主のなされたくすしきみわざとをきたるべき代に告げるであろう。
- 5 主はあかしをヤコブのうちにたて、おきてをイスラエルのうちに定めて、その子孫に教うべきことをわれらの先祖たちに命じられた。
- 6 これは次の代に生れる子孫がこれを知り、みずから起って、そのまた子孫にこれを伝え、7 彼らをして神に望みをおき、神のみわざを忘れず、その戒めを守らせるためである。
- 8 またその先祖たちのようになたかたなく、そむく者のやからとなり、その心が定まりなく、その魂が神に忠実でないやからとならないためである。

回ヨシアが約束の地で民と契約を結ぶ
Jsh 24:2 としてヨシアはすべての民に言った、「イスラエルの神、主は、こう仰せられる、『あなたがたの先祖たち、すなわちアブラハムの父、ナホルの父テラは、昔、ユフラテ川の向こうに住み、みな、ほかの神々に仕えていたが、』
:15・・・あたしとあたしの家とは共に主に仕えます。』

回サムエルが王を求めた民に証言する
1Sm 12:6 サムエルは民に言った、「モーセとアロンを立てて、あなたがたの先祖をエジプトの地から導き出された主が証人です。』
:7 それゆえ、あなたがたは今、立ちなさい。あたしは主が、あなたがたとあなたがたの先祖のために行われたすべての救のあざについて、主の前に、あなたがたと論じよう。

回バビロンから帰還した民の罪の告白(エズラが指導)
Neh 9:5 それからまたエシュア・・・などどのレビびとは言った、「立ちあがって永遠から永遠にいますあなたの神、主をほめなさい。あなたの尊い名はほむべきかな。これはすべて祝福とさんびを越えるものです。』

回詩篇78, 105, 106, 136

回ステパノの証言
Act 7:2 そこで、ステパノが言った、「兄弟たち、父たちよ、お聞き下さい。わたしたちの父祖アブラハムが、カナンに住む前、まだメソポタミアにいたとき、栄光の神が彼に現れて

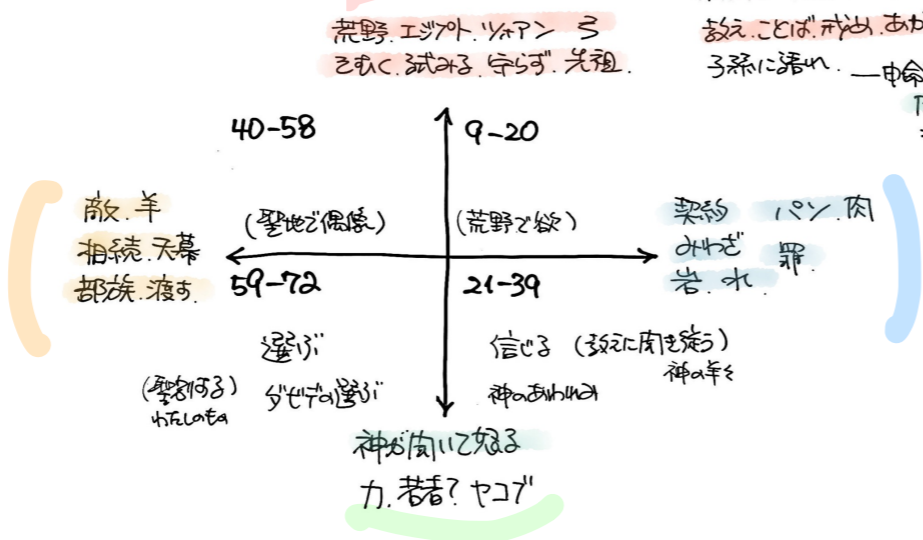
回パウロの導船のごとば
Act 13:16 そこでパウロが立ちあがり、手を振りながら言った。「イスラエルの人たち、ならびに神を敬うかたがたよ、お聞き下さい。:17 この民イスラエルの神は、わたしたちの先祖を選び、エジプトの地に滞在し、この民を大いなるものとし、み腕を高くさし上げて、彼らをその地から導き出された。

回信仰の先祖たちの証言
Hbr 11:1 さて、信仰とは、望んでいる事がらを確信し、まだ見ていない事実を確認することである。:2 昔の人たちは、この信仰のゆえに賞賛された。:3 信仰によって、わたしたちは、この世界が神の言葉で造られたのであり、したがって、見えるものは現れているものから出てきたのではないことを、悟るのである。:4 信仰によって、アベルは・・・
Hbr 12:1 こういうわけで、わたしたちは、このような多くの証人に雲のように囲まれているのであるから、いっさいの重荷と、からみつく罪をかかなく引捨てて、わたしたちの参加すべき競走を、耐え忍んで走りぬこうではないか。

回昔書かれたものは
Rom 15:4 これまでに書かれた事からは、すべてわたしたちの教のために書かれたのであって、それは聖書の与える忍耐と堅めとによって、望みをいだかせるためである。

1-8

(廣く) 耳を傾けよ。
教へ ことば 神の あかし...
子孫に語り。 —申命記4:44-11:
神を信じよ... 志し子孫...
= 2神 + 4神



回聞きなさい、忘れるな

Deu 5:1 さてモーセはイスラエルのすべての人を召し寄せて言った、「イスラエルよ、きょう、あなたがあなたがたの耳に語る定めと、おきてを聞き、これを学び、これを守って行え。
Deu 6:4 イスラエルよ聞け。あれあれの神、主は唯一の主である。:5 あなたは心をつくし、精神をつくし、力をつくして、あなたの神、主を愛さなければならぬ。:6 きょう、あたしがあなたに命じるこれらの言葉をあなたの心に留め、:7 努めてこれをあなたの子らに教え、あなたが家に座している時も、道を歩く時も、寝る時も、起きる時も、これについて語らなければならぬ。:8 またあなたはこれをあなたの手につけてしとし、あなたの目の間に置いて覚えし、:9 またあなたの家の入口の柱と、あなたの門とに書きしるさなければならぬ。
Deu 32:1 「天よ、耳を傾けよ、あなたは語る、地よ、あたしの言葉の言葉を聞け。」

- 9 エフライムの人々は武装し、弓を携えたが、戦いの日に引き返した。
- 10 彼らは神の契約を守らず、そのおきてにしたがって歩むことを拒み、11 神がなされた事と、彼らに示されたくすしきみわざとを忘れた。
- 12 神はエジプトの地と、ゾアンの野でくすしきみわざを彼らの先祖たちの前に行われた。
- 13 神は海を分けて彼らを通らせ、水を立てて山のようにされた。
- 14 昼は雲をもつて彼らを導き、夜は、よもすがら火の光をもつて彼らを導かれた。
- 15 神は荒野で岩を裂き、淵から飲むように豊かに彼らに飲ませ、16 また岩から流れを引いて、川のように水を流れさせられた。
- 17 ところが彼らはなお神にむかつて罪をかさね、荒野でいと高き者にそむき、18 おのが欲のために食物を求めて、その心のうちに神を試みた。
- 19 また彼らは神に逆らって言った、「神は荒野に宴を設けることができるだろうか。」「神は岩を打たれると、水はほとばしりいで、流れがあふれた。神はまたパンを与えることができるだろうか。民のために肉を備えることができるだろうか」と。
- 20 見よ、神が岩を打たれると、水はほとばしりいで、流れがあふれた。神はまたパンを与えることができるだろうか。民のために肉を備えることができるだろうか」と。
- 21 それゆえ、主は聞いて憤られた。火はヤコブにむかつて燃えあがり、怒りはイスラエルにむかつて立ちのぼった。22 これは彼らが神を信せず、その救の力を信用しなかつたからである。
- 23 しかし神は上なる大空に命じて天の戸を開き、24 彼らの上にマナを降らせて食べさせ、天の穀物を彼らに与えられた。
- 25 人は天使のパンを食べた。神は彼らに食物をおくって飽き足らせられた。26 神は天に東風を吹かせ、み力をもつて南風を導かれた。
- 27 神は彼らの上に肉をちりのように降らせ、翼ある鳥を海の砂のように降らせて、28 その宿営のなか、そのすまいのまわりに落された。
- 29 こうして彼らは食べて、飽き足ることができた。神が彼らにその望んだものを与えられたからである。
- 30 ところが彼らがまだその欲を離れず、食物がなお口の中にあるうちに、31 神の怒りが彼らにむかつて立ちのぼり、彼らのうちの最も強い者を殺し、イスラエルのうちのえり抜き者を打ち倒された。32 すべてこれらの事があつたにもかかわらず、彼らはなお罪を犯し、そのくすしきみわざを信じなかつた。
- 33 それゆえ神は彼らの目を息のように消えさせ、彼らの年を恐れをもつて過させられた。
- 34 神が彼らを殺されたとき、彼らは神をたずね、悔いて神を熱心に求めた。
- 35 こうして彼らは、神は彼らの岩、いと高き神は彼らのがないぬしであることを思い出した。
- 36 しかし彼らはその口をもつて神にへつらい、その舌をもつて神に偽りを言った。
- 37 彼らの心は神にむかつて堅実でなく、神の契約はあわれみに富まれるので、38 しかし神はあわれみに富まれるので、彼らの不義をゆるして滅ぼさず、しばしばその怒りをおさえて、その憤りをことごとくふり起されなかつた。
- 39 また神は、彼らがただ肉であつて、過ぎ去れば再び帰りこぬ風であることを思い出された。
- 40 幾たび彼らは荒野で神にそむき、荒野で神を悲しませたことであろうか。41 彼らはかさねがさね神を試み、イスラエルの聖者を怒らせた。神が彼らをおだからあがなわれた日をも思い出さなかつた。
- 42 彼らは神の力をも、神が彼らをおだからあがなわれた日をも思い出さなかつた。
- 43 神はエジプトでもろもろのしるしをおこない、ゾアンの野でもろもろの奇跡をおこない、44 彼らの川を血に変らせて、その流れを飲むことができないようにされた。
- 45 神ははえの群れを彼らのうちに送って彼らを食べさせ、かえるを送って彼らを滅ぼされた。
- 46 また神は彼らの作物を青虫にわたした。彼らの勤労の実をいなごにわたされた。
- 47 神はひょうをもつて彼らのおどろの木を枯らし、霜をもつて彼らのいちじく桑の木を枯らされた。
- 48 神は彼らの家畜をひょうにわたした。彼らの群れを燃えるいなごにわたされた。
- 49 神は彼らの上に激しい怒りと、憤りと、恨みと、惱みと、滅ぼす天使の群れとを放たれた。
- 50 神はその怒りのために道を設け、彼らの魂を死から免れさせず、そのいのちを疫病にわたされた。
- 51 神はエジプトですべてのういごを撃ち、ハムの天幕で彼らの力の初めの子を撃たれた。
- 52 こうして神はおのれの民を羊のように引き出し、彼らを荒野で羊の群れのように導き、53 彼らを安らかに導かれたので、彼らは恐れることがなかつた。
- 54 神は彼らと、海は彼らの敵をのみつきました。しかし海は彼らの聖地に伴い、55 神は彼らの前からもろもろの国民を追い出し、その地を分けて嗣業とし、イスラエルの諸族を彼らの天幕に住ませられた。
- 56 しかし彼らはいと高き神を試み、これにそむいて、そのもろもろのあかしを守らず、57 そむき去って、先祖たちのように真実を失い、狂った弓のようにねじれた。
- 58 彼らは高き所を設けて神を怒らせ、刻んだ像をもつて神のねたみを起した。
- 59 神は聞いて大いに怒り、イスラエルを全くしりぞけられた。
- 60 神は人々のなかに設けた幕屋なるシロのすまいを捨て、61 その力をとりことなさせ、その栄光をおだの手にわたされた。
- 62 神はその民をつぎにわたした、その嗣業にむかつて大いなる怒りをもらされた。
- 63 火は彼らの若者たちを焼きつくし、彼らのおとめたちは婚姻の歌を失い、64 彼らの祭司たちはつぎによつて倒れ、彼らのやもめたちは嘆き悲しむことさえしなかつた。
- 65 そのとき主は眠つた者のさめたように、勇士が酒によつて叫ぶように目をさまして、66 そのあだを撃ち退け、とこしえの恥を彼らに負わせられた。
- 67 神はヨセフの天幕をしりぞけ、エフライムの部族を選ばず、68 ユダの部族を選び、神の愛するシオンの山を選ばれた。
- 69 神はその聖所を高い天のように建て、とこしえに基を定められた地のように建てられた。
- 70 神はそのしもべダビデを選んで、羊のおりから取り、71 乳を与える雌羊の番をするところからつれて来て、その民ヤコブ、その嗣業イスラエルの牧者とされた。
- 72 こうして彼は直き心をもつて彼らを牧し、巧みな手をもつて彼らを導いた。